

福岡市設計測量業協会・日本測量協会の「平成29年度技術講習会」開く
熊本地震や測量技術、防災関連製品、災害支援活動等について熱心に学ぶ



会員ら約60人が熱心に聴講した平成29年度技術講習会

(一社)福岡市設計測量業協会(尾川昇会長)・(公社)日本測量協会共催の「平成29年度技術講習会」は17日、春日市のクローバープラザで開き、会員ら関係者約60人が出席し、熊本地震のメカニズム、ループ継手式大型雨水貯留槽「ためる一ぷ」、測量業の重要事項、九州北部豪雨災害の支援活動等について学んだ。

開会挨拶で、尾川会長(都市企画センター株)は「朝倉市の豪雨災害の支援活動については後の講演で詳しい話が予定されています。昨年は熊本の地震災害、福岡市博多駅前の道路陥没事故、今年の九州北部豪雨災害など大きな災害が発生していますが、これからも大規模災害の発生が懸念されています。私たちも関係業界としていろいろ調査・研究していかなければならない」とし、技術研修の必要性などを訴えた。また、日本測量協会九州支部の上床隆彦支部長も「市測協さんには日頃から技術講習会などでお世話になり、感謝いたします。この技術講習会を会員各社の技術向上に役立てていただきたい」などと挨拶



主催者挨拶の尾川会長

など挨拶

挨拶した。

講習会では、太洋建設コンサルタント㈱の横尾整司技師長が「熊本地震のメカニズムについて」、㈱ヤマウ開発グループの田中啓司グループリーダーが「ループ継手式—大型雨水貯留槽「ためる一ふ」について」、(公社)日本測量協会九州支部の西村千行氏(元技術センター長)が「測量作業を進める上での重要な事項」と「電子基準点の選定を終えて」について、福岡市設計測量業協会の福澤一博防災委員長(㈱スリーエヌ技術コンサルタント)が朝倉地区の「災害支援活動について」それぞれ講演。参加者は、講師の話に耳を傾け、メモを取るなど熱心に聴講していた。

最後に福岡市設計測量業協会の米倉隆盛副会長(第一総合技術㈱)が閉会挨拶をして、締めくくった。